

通り雨

宮本百合子

青空文庫

私の部屋の前にかなり質たちの好い紅葉が一本ある。

気がつかないで居て今日見るとめつきり色いろづ附いて、品の好い褪紅色になつて槇の隣りにとびぬけた美しくさで輝いて居る。

今畳屋が入つて居るので家中、何となし新らしい畳特有の香りで一杯になつて居る。

今日は子供部屋の畳を取りかえると云つて中庭中に、台を持ち出してひどい風に吹かれながら縫いなおしの表おもてをさして居た。

朝からの風が雨になつて大粒なのがポトーリポトーリと落ちて来た。

若い職人は主婦から注意されるまで意地の強い顔をして座つて

居る。

「玄関の土間へ行つて御仕よ、

床を濡とこされたら仕様がなから。

わきに居る書生に大きな台の片方だけ持つてやれと云つたりした。

一枚の畳が乗るだけの台だからそんなに広くない土間に五つ六つのが入るはずもなく私の部屋の長い廂ひさしの下へも一つ持つて来た。誰も居まいと思つて居た処に私が居たんで二人は少なからずへどもどして敷居とすれすれに台を置いて頭を持ちあげる拍子に隅の方へ入つて居た方が上の窓の木で頭をぶつた。

私は失笑ふきだしそうになったのを辛ようやつと知らん顔をする。

だまつて顔を見合わせた二人はそそくさと出て行つて庭の中で雨にぬれながら押し出された様な声で笑つて居た。

又私の居る処へ来て玄関の土間へ声をかける、

「どうにかして、もう一台だけ入れないかい？」

「どうして入れるもんかい、馬鹿な。」

来て見ろよ、もうきちきちだよ、

そこで出来るだろう。

向うの窓をあけて私の部屋の廂を見る。

「駄目なんだよ、

此処に石が有るから。

彼方あっちへ廻つたら濡鼠だ。

「どうにかしてやるから待ってろ。

首を引込めて仕舞った。

二人は道具を入れた小さい行李こうりの様なものを楓の枝ごみの葉かげに置いたり散らばった穀わらを足で押えてしごきながらひろって居る。

私の部屋の廂の下の畳には雨のしぶきが随分掛って居る。私はあれを敷いたらしめってさぞ毒な事だろうと思う。

しめった日や場所に居るとすぐ起る私の神経痛の事を思うところまっかいしぶきを浴びて居る畳を見ただけで頭の後の方がズズーンとする様な感じがする。

今まで塵ちりばっけだった職人の腹掛も雨に打たれて香におやかな紺

の色になって赤っぽい紅葉や山茶花の間を通る時に腹掛ばかりが美しい。

しめった土を白い二本緒の草履がかけて通る。

顔は見えないに限る。

「ごみ」の中に見えなくなった針を二人がかりでさがして居る間に、

「おい源……^{げん}」

源、居ないのかい。

一台あいたよ。

床だけ持って来な。

と土間から窓を透してさっきの声が叱鳴る。

急い^{いそ}いで取つて返して来た二人は床を持つて木の間に消えて行く。
あとにぎあつと十本。

真黒な土にはつきりと快く黄いろい「わら」が落ちて居る。

目ざわりになると思つてか台を紅葉^{もみじ}の下にころがして行く。

背が低く左右に形よく拡^{ひろ}がった褪紅色の下に台があお向にひつくり返つて居る。

何とか云う事はなしにつり合つた奇麗な景色に見える。

土間で、

「おい、糸おくれな。

とさっきの男が云つて居た頃はもう雨は音もない。

木の葉から葉へと落ちる雫の音があわただしい通り雨の後を不

器用にまとめて行く。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第二十九卷」新日本出版社

1981（昭和56）年12月25日初版

1986（昭和61）年3月20日第5刷

初出：「宮本百合子全集 第二十九卷」新日本出版社

1981（昭和56）年12月25日初版

入力：柴田卓治

校正：土屋隆

2009年1月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

通り雨

宮本百合子

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>